



古道を訪ねて ②

巡礼道

(勝尾寺・中山寺) ②



前回ご紹介した「右中山又大坂みち」の道標に従って、勝尾寺旧参道から右側に分岐する「巡礼道」を進んで行きます。木立のなかを通る道は薄暗く、けもの道のような細い道で、今は歩く人も少ないようですが、整備されていない山道を歩くと、かえって昔の巡礼になった気分になれます。

分岐点から300mほど行くと、左手に大きな石の地蔵が立っています。「しらみ地蔵」と呼ばれるこの地蔵は、市内では最も大きな石仏で、高さは約2mも

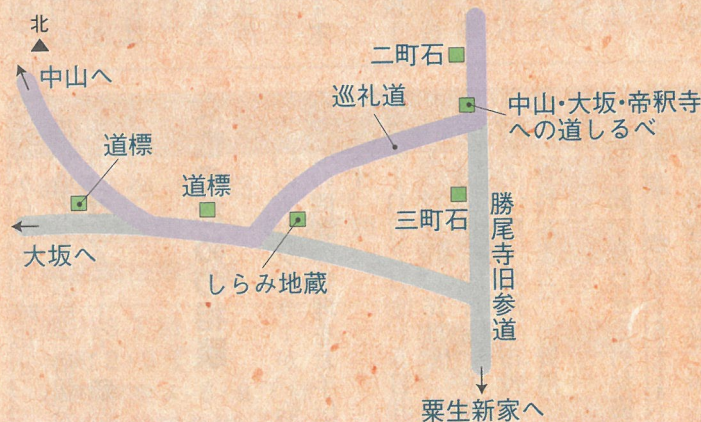


▶しらみ地蔵

あります。全体が著しく風化しているため、一見ただの石の固まりのように見えますが、よく見ると顔や腕、光背・袈裟などのこん跡を確認できるほか、なんらかの理由で真つ二つに折れたのか、胴体にはつなぎ合わせた跡もあります。名前の由来は定かではありませんが、早朝に下の村から勝尾寺へ向かって行くと、このあたりで空がしらんできた（明るくなってきた）から「しらみ地蔵」の名前が付けられたと伝えられています。

地蔵の前を過ぎるとすぐに道は左右に分かれますが、ここで右の方へ曲がります。100mほど進むと、右側に折れて上部だけになってしまった道標があります。心あるかたにより根本をコンクリートで固めて保存されています。「右か」の文字が読みとれますので、本来は右へ行けば勝尾寺と示したものであったと考えられますが、おそらく、本来の場所から現在の位置へ移転されたのでしょう。

さらに200mほど進むと、道は左右に分



▶「右中山大坂」の道標



かれますが、ここにも道標があります。正面に地蔵菩薩を浮き彫りにして、その下に「右中山」、左の面には「左大坂」の文字が力強く刻まれています。この道標に沿って右へ行くと巡礼道ですが、左に行く道は、勝尾寺と大坂を結ぶ最短の道です。